



2021年1月21日放送

COVID-19における薬剤師の対応について

東京ベイ・浦安市川医療センター 薬剤室

栞 秀樹

収録日の本日は東京の感染者数 1,200 人と猛威を振るっております。今日も医療機関では、医師・看護師そして検査を実施している検査技師が、最前線で診療・看護・検査にあたっています。一見薬剤師は最前線にいないように見えるのですが、我々は COVID-19 に対してどのように立ち向かっていくべきでしょうか。薬剤師の皆さまに役立つ情報を提供できれば幸いです。

当初未知のウイルスだった SARS-COV2 も少しずつその全貌がわかってきました。一方で情報が錯綜しているのも事実で、信頼のおける情報源が分からず、困惑している薬剤師の方々は多いのではないのでしょうか。薬局で働いている薬剤師の方々は、一般市民が最も身近に会いに行ける医療専門職です。そのため、薬剤師は多くの一般市民に、可能な限り正確な情報を伝えることが重要だと思います。

皆さんは、患者さんから、親戚から、そして家族からどのような質問を受けるでしょうか？ そして日常生活していて、どのような疑問を持ちますか？ 今回は代表的な疑問である COVID-19 の予防方法と治療方法についてお話しできればと思います。

COVID-19 の予防方法

SARS-COV2 はウイルスです。ウイルスは当たり前ですが目には見えません。目に見えないので、どこから感染しているのか、その経路が見えません。しかし、ウイルスを含む感染症の病原体が、体内に入る場所というのは決まっています。それは、外界と体内が繋がっているところです。体のつくりを見てみると、外界と接しているのは、目・鼻・口・耳・尿道・肛門などです。いわゆる人間の穴という穴を思い浮かべていただければと思います。

このうち、SARS-COV2 は目・鼻・口から入ると言われています。そのため、目・鼻・口に触れるものに感染のリスクがあるわけです。

飛沫・エアロゾル

最初に飛沫やエアロゾルを考えていきたいと思います。これは感染者から飛沫やエアロゾルが出た場合、目・鼻・口に直接入る、または吸入することで感染してしまいます。そのため、感染者は飛沫を出さないように、防護具としてサージカルマスクを付け、非感染者はアイマスク・フェイスシールド・サージカルマスクで防いでいるわけです。

そのため、これらの防護具をつける、そして感染者につけてもらう時には、感染させないためにつけるのか、感染しないためにつけるのか、明確に分ける必要があります。

街中に出ていると、これらを分けずに使っている方を多く見かけます。例えば、くしゃみや咳をする時だけ、マスクを外す方を見かけます。マスクの一番の効果は、飛沫を出さず感染させないために使用しているので、常につけておく必要があります。飲食の場がリスクと言われるのは、このマスクを外してしまうので、飛沫が飛ぶリスクが高くなってしまうためです。また、マウスシールドのような口の一部を覆うものがありますが、これは感染させないために飛沫を防止する効果が低いばかりではなく、感染しないための防護具の役割も弱いと言わざるを得ません。そもそも口の上が開いていますからね。この様に、薬剤師は防護具を何のためにつけているのか、その感染経路から明確に説明し、適切な防護具の使用法の周知に努める必要があります。

手指消毒

次に目・鼻・口にウイルスが入ってしまう原因は何でしょうか。それは自分の手です。普段、人はどのくらい顔を触っているのでしょうか。そんなに触らないでしょうと思った方、実は、人は1時間に23回、なんと1分間に4回も自分の顔を触っているというデータがあります。意外と無意識に触っているのですね。触った手にウイルスがついていたら、もちろん感染するリスクは高くなってしまいます。そのため、なるべく目・鼻・口を触らないことが重要ですが、リスクを減らすために、手についたウイルスを除去する、消毒するために手指消毒を行います。

手指消毒の代表的な製剤は、消毒用アルコール製剤です。76.9～81.4%のアルコールは、最も消毒効果が高いと言われていて、それより高くても低くても消毒効果は落ちてしまいます。これを十分量手に取り、摺りこんで使用することで、適正な手指消毒方法が行えます。

SARS-COV2 に対するアルコール製剤の有効性は実証されていますが、他の消毒薬はどうでしょうか。世の中には、ありとあらゆる消毒薬が出てきました。お店に入店する際に、そこに置いてある消毒薬のうち、消毒用アルコールと書いてあるものはまだ信用できるのですが、消毒薬としか書いていないものは、得体が知れないものかもしれません。手に取っ

た瞬間、アルコール特有のヒヤッとした感覚がしないものは、まずアルコールではないと思っていただいて良いでしょう。

実はコロナウイルスに効果のある生体消毒薬、つまり身体に用いることのできる消毒薬は限られています。具体的には、消毒用アルコール、そして流水石けんでの手洗いが推奨されています。しかし、世の中には多くのコロナウイルスに有効と表記している消毒薬が販売されています。特に最近よく見かけるのは、次亜塩素酸水です。様々なメーカーから発売されており、中には水と塩から作れる次亜塩素酸製造機なるものも販売されています。

この消毒薬や消毒薬製造機は本当に効果があるのでしょうか。その答えは実は不明です。消毒薬は濃度・保存方法や期限、使用方法を適正に管理した条件で、初めてその効果を発揮します。我々が行った調査では、あるインターネット販売会社で売られている次亜塩素酸水 97 商品のうち、有効性を担保できるような条件の商品は、わずか 4%でした。満たしていない条件は、消毒前の汚れの除去の記載不備が 96%と、ほとんどの製品で満たしておらず、不適切な保存方法は 50%、約半分の製品が条件を満たしていませんでした。SARS-COV2 に有効な消毒薬が適正に販売されていないことを示します。

薬局ドラッグストアの薬剤師の方々は、販売する消毒薬の選定を行い、有効性を担保できるよう条件表記を市民に説明する必要があります。詳しい条件は、厚生労働省や経済産業省が出している指針を参考にいただければと思います。

ちなみに余談ですが、消毒という言葉は、法律で使用許可が決められているもので、基準を満たしていない製品には使用することができません。一方、除菌などの言葉はそのような制限がないため、使用することができますが、取り締まる基準も無いため、極めて曖昧な表現といえるでしょう。

少し話はそれますが、空間除菌というものも販売されておりますが、SARS-COV2 の感染経路を振り返ると空間除菌は効果的でないことが分かるかと思えます。

以上 COVID-19 の予防の話をしてきました。

COVID-19 の治療

次に治療薬の話をしてしたいと思います。COVID-19 に対してエビデンスのある薬は限られています。現在、世界保健機構 Who が推奨している治療薬は、デキサメタゾンというステロイドの点滴のみです。この他は弱い推奨もしくは推奨しないことが明記されています。

治療薬の抗ウイルス薬である皆さんもよくご存知なのはレムデシビル、商品名で言うとベクルリー、ファビピラビル、アビガンなどではないでしょうか。レムデシビルは、効果がある程度認められている報告や、そうでない報告が様々あり、一定しません。実際に使用した感じや、使った人使われた人の効いたみたいな感想などがネットやテレビで流れています。これを信じたい気持ちはわかります。しかし、医療の世界において、治療薬の効果を示す最も重要な情報は、臨床試験といわれる多くの人に使ったデータです。投与した群と投与

しなかった群で、死亡率が低下したというようなデータが最も重要なわけです。しかし、レムデシビル多くの研究では、これを証明できておりません。またアビガンも同様で、出ているデータは、症状改善までに何日間短くなったとか、ウイルスの消失が何日間短くなったというデータしか出ていないため、これをもって積極的に使おうとはならないのです。特にアビガンは、副作用として催奇形性が完全に否定できていないので、広く一般的に多くの人に「飲んでください。どうぞ」と言うことは、危険が伴いできないのです。医療の質の高さは、どれだけ多くの人に効果的な結果を出したのかで決定するため、一部の人だけが特別に受け取ることができるエビデンスのある治療は存在しないとなります。

以上、COVID-19 に対する薬剤師からの意見を述べさせていただきました。薬剤師は直接 COVID-19 の患者さんに接する機会は多くないのですが、一般市民の方々に正確な情報を発信できるように努める必要があると思います。

放送日の今日がコロナ終息に向かっていくことを願って今回の話を終了したいと思います。